

今回は、1月23日に行われた口腔顔面痛診断実習セミナーについて、いまきいれ総合病院麻酔科/歯科口腔外科の千堂良造先生と日本大学口腔診断学講座の小笹佳奈先生に報告していただきます。

口腔顔面痛診断実習セミナー参加報告

いまきいれ総合病院 麻酔科/歯科口腔外科 千堂良造

コロナ禍となり学会やセミナーのオンライン開催が当たり前となつて久しい中、令和4年1月23日に、2度目となるオンラインでの口腔顔面痛診断実習セミナーが開催された。1月11~21日の期間にオンデマンド配信による事前講義&小テストを受講した上で、当日、オンラインでのデモンストレーションやグループワークを行なった。思い返せば、私が初めてNews Letterを執筆することとなった他施設での研修の頃にCOVID-19による新しい生活様式が始まり、早2年が過ぎ、遅ればせながらこのセミナーに参加した。

【事前講義】

まず、本学会が「IASP 教育システム開発プロジェクト」として開発中のe-learning「口腔顔面痛アプリ」を用いた事前学習が必要であった。今回のセミナー用に、以下のようなコンテンツが用意された。

○臨床診断推論による症例鑑別診断の進め方

(慶應義塾大学歯科 口腔外科教室 和嶋浩一講師)

○臨床診断推論のための症例提示 (川崎市立井田病院 歯科口腔外科 村岡渡講師)

○筋・筋膜性疼痛診査法

(日本大学松戸歯学部附属病院 口・顔・頭の痛み外来 小見山道講師)

○臨床診断推論のための症例提示 (愛知医科大学 痛みセンター 西須大徳講師)

○すぐできる12脳神経の診査法の実際

(日本大学松戸歯学部 有床義歯補綴学講座 大久保昌和講師)

○神経障害性疼痛診査法解説 (日本大学歯学部 口腔診断学講座 野間昇講師)

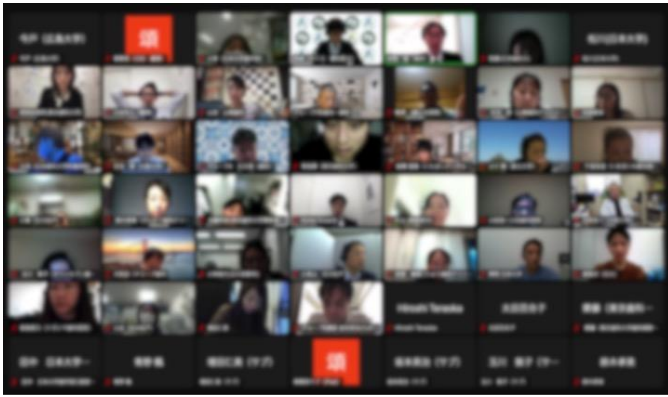
各プログラムを受講後には小テストや課題が設けられており、自分のペースで内容を理解しながら進めることができた。このような知識のインプットにはオンデマンドプログラムは有用だと感じたし、都心部から遠方に住む私にとっては大変にありがたかった。

本アプリには、さらに「口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック」一冊分の内容が納められており、携帯やPCを用いて学習し、テキストの内容についての問題を解きながら、自分のペースで口腔顔面痛の勉強を進めることができる。すでに昨年11月の学術大会の後日オンデマンドも本アプリを用いて実施され、今後、その他の有料セミナー開催や申し込み決済などもアプリ上で可能となる。現在、部分的な運用を開始しており、2022年内の正式運用を目指しているとのことである。



アプリ画面

【診断実習当日：午前】



オンライン会議室の様子

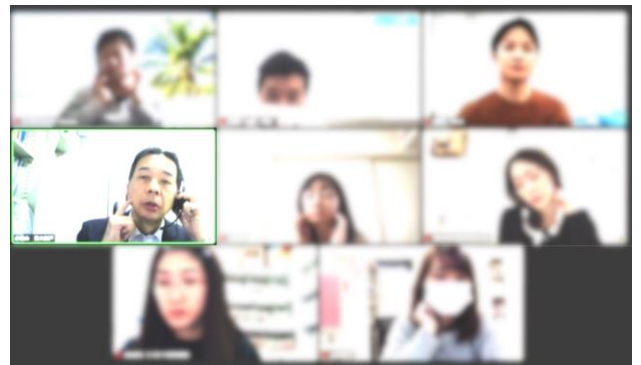
次に、筋・筋膜性疼痛診査法の説明・デモンストレーションがあり、触診法実習のため各班ルームへ移動した。オンラインでの実習で自分自身へ触診する形とはなるため、相互実習と比較すると物足りなさを感じはするが、十分に咀嚼筋圧痛検査を学ぶことができた。

その後、個人的には本セミナーのメインイベントだと認識していた臨床診断推論実習へと移った。ワークシートを利用し、鑑別診断について確認作業や整合性確認をグループで様々なディスカッションしながら進めていくその過程は、さながら臨床現場でのカンファレンスであった。グループワークから導かれた最終診断を全グループが発表したのだが、概ね同じ方向性になっており、臨床診断推論の有用性を体感できる内容であった。

9:30 より受付開始で、オンライン会議室に入り A～F 班の各ルームに移動、画面共有など動作確認を行なった。人によってはここが鬼門となりそうだが、ファシリテーターの先生方が柔軟に手厚くサポートしてくださった。

はじめに村岡渡講師よりプログラム解説があり、午前中のグループワーク課題となる臨床診断推論のための症例提示が行われた。

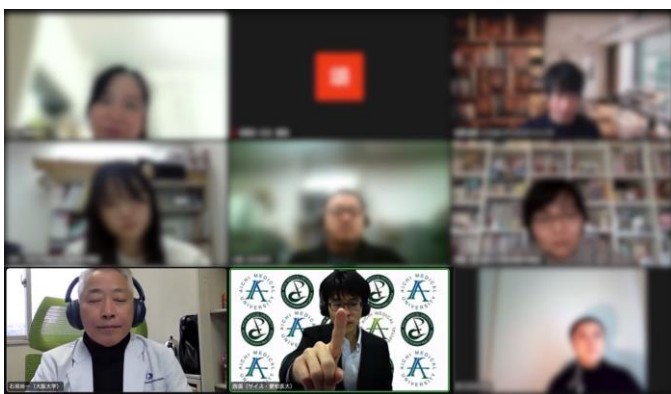
症例は事前講義でも提示されており、既に課題として各々が臨床診断推論のワークシートに記入していたため、再確認をする形であった。



筋・筋膜性疼痛診査法の実習

日本大学 口腔診断学講座 小笹佳奈

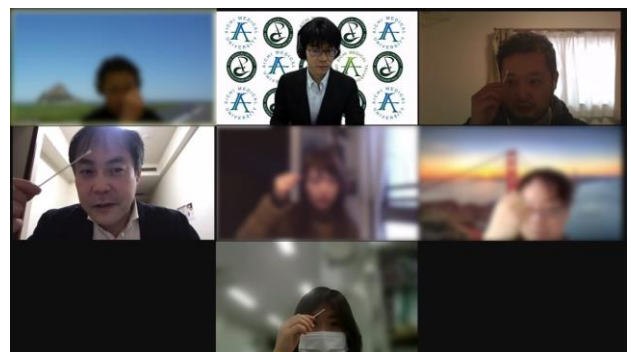
【診断実習当日：午後】



12 脳神経診査法の実習

次に、野間昇講師より、神経障害性疼痛診査法の解説及びデモンストレーションが行われた。神経障害性疼痛の診断を難しく感じていたが、定性感覚検査や定量感覚検査を行うことで、より細やかな診断ができることを学んだ。

午後の講義は、まず臨床診断推論ための症例②が西須大徳講師から掲示された。そして、大久保昌和講師より、12 脳神経の診査法の解説及びデモンストレーションが行われた。その後、各グループに分かれファシリテーターの講師のもと、脳神経の検査を行った。当班の坂本講師はオンラインでの難しい環境の中で、工夫し眼球の縮瞳運動などのデモンストレーションを行った。オンラインでは確認が困難な手技もあったが、12 脳神経の検査法の流れを細かく学ぶことができた。



神経障害性疼痛診査法の実習

2症例目の臨床診断推論実習も、1症例目と同様に診断過程記入表に記載をしながら症例検討を行った。各グループの発表後に、西須講師から当症例における詳説があり、各々グループ内での討議内容を確認した。

実習セミナーの最後は、質疑応答と総合ディスカッション、ポストテストを行い、本セミナー受講後の理解度の確認が行われた。

初めて参加する実習セミナーであったが、講師の先生方の分かりやすい説明やデモンストレーションにより、口腔顔面痛における診断に必要な手技などをより深く学ぶことができた。また、他大学の先生方や開業医にお勤めの先生方とディスカッションを通し考え方を学ぶことができた。本セミナーで学んだことを今後の診療に生かしていきたいと思う。COVID-19の終息がみえないが、実習セミナーもオンデマンドで十分に理解を深めることができると感じた。

【千堂良造 先生のプロフィール】



<略歴>

2012年 東京医科歯科大学 卒業

2015年 鹿児島大学病院 歯科麻酔科 入局

2019年 九州歯科大学 ペインクリニック研修

2021年 公益社団法人昭和会 いまきいれ総合病院 麻酔科/歯科
口腔外科 勤務

【小笹佳奈 先生のプロフィール】



<略歴>

2016年 日本大学歯学部歯学科卒業

2018年 日本大学歯学部口腔診断学講座入局

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp